

## 各論点に係る参考資料の概要

( 研究医養成との関係等 )

「臨床研修ワーキンググループ論点整理」参考資料(平成25年2月8日)より、本日の議題に関係した部分について、主な調査結果等の概要をまとめたものである。

### 4. その他

#### 2) 研究医養成との関係

基礎系の大学院博士課程入学者に占める医師免許取得者の割合が低下している。また、専門医取得への志向に比べ、博士号取得の志向は低調である。(参考資料 P91：文部科学省、厚生労働省)

研究医を目指す学生が、学部から大学院へ途切れなく進むことができるよう、各大学において、研究医養成のための取組が進められている。(参考資料 P92：文部科学省)

医師免許を持つ基礎医学研究者の減少等に対応するため、平成 22 年度から「研究医枠」として大学の入学定員の増員を実施している。各大学では、奨学金や学部・大学院を一貫したコースの設定などを通じて、研究者の養成に取り組んでいる。(参考資料 P92：文部科学省)

#### 3) 関連する医学教育等

学生が卒業までに最低限履修すべき教育内容をまとめた医学教育の指針である「医学教育モデル・コア・カリキュラム」について、現在では全ての大学で利用されている。(参考資料 P94：文部科学省)

学生が臨床実習開始前に備えるべき能力を測定する共通の標準的評価試験である共用試験(CBT(知識)、OSCE(技能))は、全大学において実施されている。大半の大学において共用試験を進級要件として利用しているが、合格基準は大学により異なることが課題である。(参考資料 P95：文部科学省)

卒業前 OSCE を実施する大学も増加する傾向であり、現在、半数以上の大学が卒業前に実施しており、全体の 1 / 4 程度が卒業認定に用いている。(参考資料 P95:文部科学省)

臨床実習を 5 ~ 6 年次に実施している病院が多いが、臨床実習の実施週数には大きな幅がある。学生が診療に参加する診療参加型実習、学外の病院での実習など、臨床実習

の内容の充実が課題である。(参考資料 P95：文部科学省)

全ての大学で診療参加型臨床実習が行われているが、国際的な質保証の要請も踏まえつつ、質的により充実した実習を実施していくことが課題となっている。(参考資料 P96,97：文部科学省)

各大学で、地域医療に関する講座等を活用し、地域医療に関する教育が行われている。  
(参考資料 P99：文部科学省)

専門医の質を高め、良質な医療が提供されることを目的に、今後、新たな専門医の仕組みが構築され、学会から独立した中立的な第三者機関により専門医の認定や養成プログラムの評価・認定を統一的に行う予定である。(参考資料 P99：厚生労働省)